

令和元（2019）年度

事業報告書

令和元（2019）年 4月 1日から
令和2（2020）年 3月31日まで

公益財団法人緑の地球防衛基金

令和元（2019）年度事業報告書

〈事業活動〉

I 地球上の生態系に深刻な影響を与える森林破壊や砂漠化を防止するための緑の保全・再生に関する調査研究及び活動並びにその推進のための助成事業（公益目的事業1）

1. 中国陝西省榆林市横山県東陽山における日中緑化協力事業

当基金は、昭和57（1982）年の設立以来、世界の森林破壊による砂漠化を防止するため、開発途上国を中心に植林活動を進めてきました。特に中国においては、20年間（陝西省韓城市象山10年、同銅川市南寺山10年）にわたって実施した緑化プロジェクトは両国間の友好の証となっています。

3回目となる陝西省榆林市東陽山緑化事業は、平成24（2012）年11月東京において、当基金と横山県（当時。現在は横山区）との間で、日本の外務、農林水産、環境の各省関係者立会いの下に「造林に関する覚書」の署名・交換が行われました。この覚書に基づき、平成25（2013）年から令和2（2020）年までの8年間、横山県東陽山において、25ヘクタール、1万400本の造林を行う緑化事業が進められています。

本件事業の7年目にあたる令和元（2019）年度は、例年と同じく100万円を支援しました。

本件事業は順調に進展し、事業開始から6年目の平成30（2018）年には、覚書に記された25ヘクタールの植林が実施済みです。令和元（2019）年にはクルミ286株が補植され、植林本数は、覚書を上回る10,933株（楠子松6,480株、クルミ4,455株）となりました。

中国東陽山緑化事業は残り1年間となりましたが、最終年度は新たな植樹はせず、今まで植樹してきた林の補植やメンテナンス管理をしっかりと行い、25ヘクタールの植林を完成させていく予定です。

2. ベトナム・ラオカイ省環境植林事業の検討

令和元（2019）年3月末に終了した「タンザニア・モデル造林事業」の後継案件として、令和元（2019）年3月に新たな植林事業として「ベトナム・ダナン市環境保護植林計画」の検討が開始されました。

本件事業は、ベトナム中部のダナン市において、ベトナム中部地域社会科学院、ダナン市森林保護開発基金の両者をカウンターパートとして植林を実施するとの

内容でしたが、令和元（2019）年8月の覚書締結直前の3者協議において、①それまで検討してきた事業内容をベトナム側から突然に見直しを求めてきたこと、②ダナン市森林保護開発基金が当基金を信頼してこなかった旨の言動が随所に見られたことなど数多くの問題が噴出し、「このような状況では覚書を締結することは出来ず白紙に戻して再検討する」こととなりました。

その後、令和元（2019）年9月10日の理事会において、「ベトナム・ダナン市環境保護植林計画の白紙撤回及びベトナムにおいて新たな植林事業を検討していく」ことが議決され、この決定を受けて、JICA（国際協力機構）ベトナム事務所を通じてベトナム中央政府の森林担当部局を窓口とした新たな植林事業の検討が進められ、ベトナム・ラオカイ省において新たな植林事業を検討することになりました。

令和元（2019）年10月には大石理事長がベトナムを訪問し、ベトナム中央政府やラオカイ省政府の関係者等と協議を行い、現地視察も行いました。その後、事業実施に向けてベトナム政府と協議を継続し、令和2（2020）年4月に「ベトナム・ラオカイ省植林計画」の覚書締結に至りました。

本件事業の概要は以下のとおりです。

- | | |
|------------|--|
| (1) 事業実施機関 | 2020年度の覚書締結時から2025年3月までの約5年間 |
| (2) 植林面積 | 15ヘクタール |
| (3) 植林本数 | 3万本 |
| (4) 植林樹種 | 馬尾松 ^{ほびしょう} （別名タイワンアカマツ）、カントンアブラギリの混植 |
| (5) 実施計画 | 1年目植林、2年目以降育林及び施肥、必要に応じて2年目補植 |

II 地球環境の保全に関する調査研究及び活動並びにその推進のための助成事業（公益目的事業2）

1. 令和2年度「地球にやさしいカード」の助成団体

株式会社セディナの「地球にやさしいカード」による令和2年度助成団体について、令和元年8月1日から9月30日までの2か月間、ホームページ等で募集を行ったところ、18団体（新規6団体、継続12団体）から応募がありました。11月に開催した審議委員会において、継続12団体についてはすべて継続することで一致しました。また、新規6団体については「サヘル^{サヘル}の森」と「熱帯林行

動ネットワーク」の2団体を新規の助成団体とする一方、他の4団体はいずれも委員の評価が低く助成対象としないことで一致しました。その後同月に開催された理事会で、審議委員会決定どおりに可決されました。

令和元年度の助成14団体は次のとおりです。

- 認定NPO法人FoE Japan
- NPO法人熱帯森林保護団体
- NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク
- NPO法人立山自然保護ネットワーク
- NPO法人夏花
- 認定NPO法人ヒマラヤ保全協会
- NPO法人サンクチュアリエヌピーオー
- NPO法人桶ヶ谷沼を考える会
- 上総自然学校
- 認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金
- 虹別コロカムイの会
- 真庭遺産研究会
- NPO法人サヘルの森
- 熱帯林行動ネットワーク

(参考) 審査の方法については、提出された申請書類の不備等を先ず事務局において確認しました。各審議委員には4つの審査項目について1点から3点までの評価点(最高で合計12点)を記入してもらい、4人の審議委員の評価点を集計し、審議委員会全体として助成の適否を決めています。

審査集計表(全体)

No.	団体名	評価合計	助成の認定
1	FoE Japan	40	可
2	熱帯森林保護団体	43	可
3	尾瀬自然保護ネットワーク	46	可
4	立山自然保護ネットワーク	41	可

5	夏花	39	可
6	ヒマラヤ保全協会	40	可
7	サンクチュアリエヌピーオー	43	可
8	桶ヶ谷沼を考える会	40	可
9	上総自然学校	38	可
10	トラ・ゾウ保護基金	42	可
11	真庭遺産研究会	39	可
12	虹別コロカムイの会	43	可
13	(新規) サヘルの森	31	可
14	(新規) オイスカ三豊推進協議会	27	不可
15	(新規) JA-NET	21	不可
16	(新規) 熱帯林行動ネットワーク	37	可
17	(新規) くまもと未来ネット	25	不可
18	(新規) 神奈川県トンボ調査・保全ネットワーク	23	不可

2. 「地球にやさしいカード」団体への助成

株式会社セディナの「地球にやさしいカード」の寄付による令和元年度の助成総額は、13団体、1,244万69百円となりました。

各団体には、従来どおり総額の30%が各テーマに均等に配分され、残りの70%がテーマごとのカード利用実績に応じて配分されました。各団体の配分は次のとおりです。

団体名	助成金額
認定NPO法人FoE Japan	301万32百円
NPO法人ストップ・フロン全国連絡会	141万85百円
NPO法人熱帯森林保護団体	105万71百円

NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク	80万73百円
NPO法人立山自然保護ネットワーク	66万05百円
NPO法人夏花	101万07百円
認定NPO法人ヒマラヤ保全協会	56万90百円
NPO法人サンクチュアリーエヌピーオー	79万30百円
NPO法人桶ヶ谷沼を考える会	53万47百円
上総自然学校	49万03百円
認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金	101万36百円
虹別コロカムイの会	78万45百円
真庭遺産研究会	29万42百円

また、各助成団体の令和元年度の活動は、次のとおりです。

(1) 地球温暖化を抑える事業（認定NPO法人 FoE Japan）

（テーマ：パリ協定後の地球温暖化対策・エネルギー政策転換に向けた提言・普及啓発活動）

途上国で起きている気候変動の影響について調査し、気候変動の緊急性を訴える活動や、足元からできる省エネ活動の調査・紹介を行いました。また、国際的な気候変動交渉をウォッチし、気候変動に関する最新の議論についてセミナーの開催やパンフレットの作成を通じ、日本の市民社会にわかりやすく伝えるための情報発信、政策提言等を行いました。

(2) オゾン層を守る事業（NPO法人 ストップ・フロン全国連絡会）

（テーマ：オゾン層保護法のHFC削減具体化のための日本での自然冷媒普及拡大事業）

近年、エアコンの冷媒に、オゾン層保護のためとしてR32というフロン系物質が使われています。しかしこれは大変危険な物質で新たな環境問題を引き起こしているため、ストップ・フロン全国連絡会では、フロンを使わない自然冷媒への転換を求めてきました。特に最もフロンの排出が大きいスーパーやコンビニの冷凍冷蔵ショーケースに使われているフロンの問題については、アニメーション動画を作成し、広く市民に伝えました。

(3) 熱帯林を守り育てる事業（NPO法人 熱帯森林保護団体）

（テーマ：ブラジル・カポトジャリーナインディオ保護区におけるの消火・消防事業）

2019年1月から8月の間に、アマゾンの森は、九州全土に相当する面積が消失しました。カポト・ジャリーナインディオ保護区では、火災から森を守

る目的で、3名のインディオリーダー、33名の若者による「インディオ消防団」を組織しており、これまでの活動振りはブラジル国内でも高く評価されています。当該団体はこの消防団を支援しており、消火道具、防護服等の物資供与等の支援を行っています。

(4) 尾瀬の自然を守る事業 (NPO法人 尾瀬自然保護ネットワーク)

(テーマ：自然環境教育事業、尾瀬の自然保護に関する調査研究事業、自然環境保護に関する普及啓発事業)

尾瀬国立公園において自然環境教育活動としてハイカーへの入山指導を延べ11週実施。尾瀬アカデミーを開講し5名のインタープリターを養成。調査活動として至仏山「携帯トイレ」アンケート調査や、外来移入植物調査等を行いました。また、8月11日「山の日」制定記念事業として“尾瀬自然ガイド”を実施しました。

(5) 立山連峰の自然を守る事業 (NPO法人 立山自然保護ネットワーク)

(テーマ：立山黒部アルペンルート沿線の外来性植物除去事業及び啓発活動)

立山地域の標高1,000m～2,450mの範囲で、オオバコやスズメノカタビラなどの低地性植物・セイヨウタンポポなどの外来性植物を除去しました。長年の努力の結果、外来性植物の繁茂を概ねコントロールできている地点が少しずつ増えています。また、春・夏・冬には富山県内の山地や丘陵で自然観察会を開催し、啓発活動にも取り組みました。

(6) 白保のサンゴを守る事業 (NPO法人 夏花)

(テーマ：石垣島白保地区におけるサンゴ礁保全活動)

白保海域は世界的にも有名なアオサンゴ群集が広がっていますが、海水温の上昇や赤土の流入によって危機的な状況にあります。今年度は、地元の子どもたちを対象に、サンゴや赤土に関するレクチャー、白保海域でのシュノーケリング体験、赤土流出対策として畑の周囲に植物を植えるグリーンベルトの植栽体験など一連の学習を実施し、環境や保全に対する意識の向上を図りました。

(7) ヒマラヤの自然を守る事業 (認定NPO法人 ヒマラヤ保全協会)

(テーマ：ネパールダウラギリ地方レスパル村 (他2村) 緑化再生プロジェクト)

1974年から半世紀にわたってヒマラヤ山麓で伐採された跡地に山岳部住民と植林活動をしており、2014年には累計100万本の植林を実現しました。2019年は、レスパル村、バランジャ村、ジーン村の3村を中心に、苗

畑での育苗、稚幼木の育成・販売、植樹活動を推進するとともに、バランジャ村及び周辺地において地域の自立支援に向けた換金作物及び果樹栽培（キウイ）に取り組みました。

(8) ウミガメを守る事業（NPO法人 サンクチュアリーエヌピーオー）

（テーマ：遠州灘海岸におけるアカウミガメと産卵地の環境保護と調査活動）

アカウミガメの保護調査活動は34年目を迎えました。アカウミガメの保護・繁殖調査や子ガメの観察会を通じて啓発に努めるとともに、プラゴミの回収などビーチクリーンアップを実施して海岸環境の向上に取り組みました。また、海浜植物による砂浜回復事業や、津波対策としての巨大堤防工事に伴う環境影響調査、環境教育の推進などにも取り組みました。

(9) トンボの保護区を守る事業（NPO法人 桶ヶ谷沼を考える会）

（テーマ：トンボの種の保全と自然環境を守る）

トンボの楽園「桶ヶ谷沼」には、絶滅危惧種ベッコウトンボをはじめ70種のトンボが確認されています。豊かな自然環境を守るため、生物生息調査、外来種駆除、水生植物増殖、林の植生管理、トンボの産卵誘致などに努めました。

(10) 上総自然学校

（テーマ：里山のトンボを元気に、数多くに）

里山の保全・育成・改良に取り組んでおり、令和元年度は、田んぼの体験イベントやトンボの観察会などの生態調査、遊歩道の整備、生き物を増やす為の開墾などを行いました。

生態調査は毎月実施するほか、センサーカメラで常時調査を行っています。夏には夜間調査も行い、千葉県生物多様性センターに報告しています。

(11) アフリカ象を守る事業（認定NPO法人 トラ・ゾウ保護基金）

（テーマ：アフリカゾウ密漁防止）

4月のアースデイ東京（代々木公園）、8月の世界ゾウの日（上野動物園）等にブースを出展し、年間2万頭以上の密猟というアフリカゾウの危機を伝え、象牙のハンコを買わないで、と訴えました。5月には最新報告書「日本の国内象牙市場を閉鎖しなければならない理由」を公表し、8月に開催されたワシントン条約第18回締約国会議議場で、その英語版を配布して象牙管理の問題点を指摘するなど、国際社会と協調して象牙市場の閉鎖に向けて取り組みました。

(12) 虹別コロカムイの会

(テーマ：シマフクロウ繁殖と河畔林造成)

北海道各地で生息しているシマフクロウは開発等により現在約165羽程度です。毎年5月に、シマフクロウの生息環境を復元するため100年計画の植樹「シマフクロウの森づくり百年事業殖樹祭」を開催したほか「摩周水環境フォーラム」の開催や、バイカモ保全活動等にも取り組みました。

(13) 真庭遺産研究会

(テーマ：豪雨災害によって繁殖地が大変し個体群が流出したオオサンショウウオの保護活動)

真庭市北部は、広大な面積で「オオサンショウウオ生息地」の指定を受けていますが、個体数の減少が進んでいます。平成30年7月の西日本豪雨によってオオサンショウウオが流失した田羽根川などの河川環境や生息状況、繁殖環境の変化の状況を把握するとともに、オオサンショウウオの繁殖移動に支障をきたしている堰堤や落差工などについて、遡上を容易にする対策を策定するなどの取組を行ってきました

III 地球環境の保全に関する普及啓発事業（公益目的事業3）

1. 機関紙（緑の地球新聞）の発行

基金の情報を発信するために、会員を対象に年4回発行している「緑の地球新聞」を継続発行するとともに、その体裁の変更及び内容の充実に取り組みました。

緑の地球新聞第144号（2019年4月5日発行）

- タンザニア・モデル造林事業 26年間の協力が成功裡に終了
- 上総自然学校の活動
- 2017年度の我が国の温室効果ガス排出量は前年度1.0%の減少、世界では1.2%の増加
- たくさんの使用済み切手などありがとうございました

緑の地球新聞第145号（2019年7月5日発行）

- 動植物100万種が絶滅危機 国連主催会合で科学者団体が報告
- 地球にやさしいカード助成団体の2019年度活動
- チャリティコンサートでの募金活動
- たくさんの使用済み切手などありがとうございました

緑の地球新聞第146号（2019年10月5日発行）

- 順調に進展する中国東陽山緑化事業
- 環境危機時計9時46分となる。調査開始以来最悪となった2018年の9時47分とほぼ同じ結果
- FoE Japanの活動
- （お知らせ）第13回研究・活動報告会の開催
- たくさんの使用済み切手などありがとうございました

緑の地球新聞第147号（2020年1月5日発行）

- 2019年度「地球にやさしいカード」助成金贈呈式／第13回研究・活動報告会を開催
- 新年のご挨拶 理事長大石正光
- 熱帯森林保護団体の活動
- 2020年度「地球にやさしいカード」の助成14団体決まる
- たくさんの使用済み切手などありがとうございました

2. 環境諸問題研究・活動報告書の作成・配布

当基金の目的である「わが国を含め地球上の緑及び緑に依存して生息する野生生物の適正な保護」等に沿って、1年間の研究・活動実績を取りまとめた「平成30年度環境諸問題研究・活動報告書」を、令和元年6月に作成しました。

写真をカラー印刷にして現地の雰囲気などを少しでも感じていただけるよう工夫するとともに、多くの皆様に活動状況を知っていただくため、会員をはじめ各国立大学図書館などに無料配布を行いました。

平成30年度（2018年度）環境諸問題研究・活動報告書の内容

- タンザニアモデル造林事業、28年間の協力が成功裡に終了 (公財) 緑の地球防衛基金
- 順調に進展する日中緑化協力事業 (公財) 緑の地球防衛基金
- 深刻になる気候変動の被害—今すぐ行動を！ 認定NPO 法人 FoE Japan

○フロン対策関連法改正に対する提言活動とフロン対策を前進させるための普及活動	NPO 法人 ストップ・フロン全国連絡会
○ブラジル、カポトジャリーナインデイト保護区における消火・消防事業	NPO 法人熱帯森林保護団体
○尾瀬の自然保護意識の高揚を図る	NPO 法人 尾瀬自然保護ネットワーク
○立山の自然を守るための活動を継続	NPO 法人 立山自然保護ネットワーク
○白保のサンゴを守る	NPO 法人夏花
○ヒマラヤ保全協会 活動2018	認定NPO 法人 ヒマラヤ保全協会
○ウミガメの保護と海岸環境を守るために	NPO 法人 サンクチュアリエヌピーオー
○トンボの種の保全と自然環境を守る	NPO 法人 桶ヶ谷沼を考える会
○上総自然学校活動報告2018	上総自然学校
○ゾウを守るための活動報告2018	認定NPO 法人 トラ・ゾウ保護基金
○シマフクロウを守る	虹別コロカムイの会
○オオサンショウウオ・トンボを保護する	真庭遺産研究会

3. 「タンザニア・モデル造林事業 28年間の足跡」の作成・配布

当基金が28年間にわたって関わってきた「タンザニア・モデル造林事業」が2018年度末（2019年3月末）に終了したことから、同事業においてこれまでに取り組んできた活動を記録として残し、今後の植林活動の参考となるように、冊子「タンザニア・モデル造林事業28年間の足跡」を、令和元年6月に作成しました。

写真をカラー印刷にして現地の雰囲気などを少しでも感じていただけるよう工夫するとともに、多くの皆様に活動状況を知っていただくため、会員をはじめ各国立大学図書館などに無料配布を行いました。

4. 情報公開

当基金の中国等における植林活動等の状況、運営内容及び財務資料等をインターネットで積極的に公開し、公正で開かれた活動を推進することにより、会員、寄付者をはじめ、国民の植林への啓発に努めました。今年度は、ホームページの月次更新を継続するとともに、情報公開の充実にも努めました。

5. イベントへの参加ーチャリティーコンサートでの募金活動

チャリティーコンサート「淡野ゴスペルクワイア」が、令和元年6月15日（土）に東京・中野区の「なかのZERO ホール」で開催されました。当基金は他の8団体とともに招かれ、募金活動に参加しました。

〈管理部門〉

1. 会員

令和元年度は、入会1件（個人1件）に対して退会は4件（個人4件）で、差し引き3件減少し、同年度末133件（前年度末136件）となりました。その内訳は、個人会員119件、法人会員14件であり、会員減少に歯止めがかかっていない状況です。

2. 寄付

令和元年度の寄付は法人・団体739万3千円（前年度815万8千円）、個人57万4千円（前年度61万9千円）の総計796万7千円（前年度877万7千円）でした。

そのうち、使用済み切手、書き損じハガキ、未使用切手などの物品寄付は129万4千円（前年度145万8千円）となりました。

なお、50万円以上を寄付した法人・団体は、株式会社セディナ、株式会社ECC、ラサ商事株式会社の3社となっています。

3. 理事会の概要

令和元年 6月 3日

- 決議 1 平成30年度事業報告書案及び同決算書案に関する件
- 2 基本財産の取り崩しに関する件
- 3 ベトナム・ダナン市環境保護植林計画（仮称）に関する件
- 報告 1 理事長及び業務執行理事の報告について

令和元年 9月10日

- 決議 1 ベトナム・ダナン市での環境保護植林計画に関する件
- 2 審議委員会委員の委嘱に関する件

令和元年 11月26日

- 決議 1 令和2年度地球にやさしいカード助成対象団体選定に関する件
- 報告 1 ベトナム・ラオカイ省における植林計画について

令和2年 3月 2日

- 決議 1 常勤役員の令和2年度報酬額等（案）に関する件
- 2 令和2年度事業計画書（案）及び同収支予算書（案）に関する件
- 3 ベトナム・ラオカイ省植林計画に関する件

- 4 「財産運用規程」の変更に関する件
 - 5 株式会社セディナの社名変更による「調査研究助成金交付規程」及び「調査研究助成金交付要綱」の変更に関する件
- 報告
- 1 理事長及び業務執行理事の報告について
 - 2 評議員、理事、監事の選任について
 - 3 「緑の地球新聞」第150号の執筆依頼について

4. 評議員会の概要

令和元年 6月19日

- 決議
- 1 議長選任の件
 - 2 議事録署名人選任の件
 - 3 平成30年度事業報告書案及び同決算書案に関する件
 - 4 基本財産の取り崩しに関する件
 - 5 ベトナム・ダナン市環境保護植林計画（仮称）に関する件

令和2年 3月17日

- 決議
- 1 議長選任の件
 - 2 議事録署名人選任の件
 - 3 常勤役員の令和2年度報酬額等（案）に関する件
 - 4 令和2年度事業計画書（案）及び同収支予算書（案）に関する件
 - 5 ベトナム・ラオカイ省植林計画に関する件
 - 6 「財産運用規程」の変更に関する件
 - 7 株式会社セディナの社名変更による「調査研究助成金交付規程」及び「調査研究助成金交付要綱」の変更に関する件
- その他
- 1 評議員、理事、監事の選任について

5. 審議委員会の概要

令和元年8月8日

- 1 議長選任に関する件
- 2 ベトナム・ダナン市環境保護植林事業に関する件

令和元年11月14日

- 1 議長選任に関する件
- 2 令和2年度助成対象団体の選定に関する件

6. 常勤役員の令和2年度報酬額等

大石正光理事長の報酬額については、月額35万円年額420万円、賞与額70万円（年2回7月期、12月期に支給）、の合計490万円の支給としました。

7. 理事長及び業務執行理事の報告

理事長及び業務執行理事の報告が、令和元年6月3日及び令和2年3月2日の理事会で行われました。

8. 職員の状況

令和2年3月末現在、事務局長1人、事務局員1人の職員2人とアルバイト1人となっています。

9. 職員の給与

令和2年3月末現在、事務局長29万5千円、事務局員20万5千円となっています。

＜1年間の出来事＞

- 平成31年4月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第144号発行
- 令和元年 5月 中旬 「地球にやさしいカード」による平成30年度下半期の助成
- 令和元年 6月 1日 平成30年度環境諸問題研究・活動報告書発行
- 令和元年 6月 1日 「タンザニア・モデル造林事業28年間の足跡」発行
- 令和元年 6月 3日 理事会を開催し、平成30年度事業報告書案及び同決算書案を全会一致で可決
- 令和元年 6月15日 チャリティーコンサート「淡野ゴスペルクワイア」で募金活動
- 令和元年 6月19日 評議員会を開催し、平成30年度事業報告書案及び同決算書案を全会一致で承認
- 令和元年 7月 1日 「地球にやさしいカード」による令和2年度助成受給団体の募集（受付期間8月1日から9月30日まで）
- 令和元年 7月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第145号発行
- 令和元年 8月25日 「ベトナム・ダナン市環境保護植林計画」実施に向けて大石理事長ほか1名をベトナムに派遣（8月31日まで）

- 令和元年 9月10日 理事会を開催し、「ベトナム・ダナン市環境保護植林計画」の白紙撤回及びベトナムにおける新たな植林計画の検討」を決議
- 令和元年10月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第146号発行
- 令和元年10月29日 「ベトナム・ラオカイ省植林計画」調査のため、大石理事長を現地に派遣（11月3日まで）
- 令和元年11月 初旬 「地球にやさしいカード」による令和元年度上半期の助成
- 令和元年11月14日 「地球にやさしいカード」による令和2年度助成団体選定のための審議委員会を開催
- 令和元年11月26日 理事会を開催し、「地球にやさしいカード」による令和2年度助成団体を全会一致で可決
- 令和2年 1月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第147号発行
- 令和2年 3月 2日 理事会を開催し、令和2年度事業計画書案及び同収支予算書案を全会一致で可決
- 令和2年 3月17日 評議員会を開催し、令和2年度事業計画書案及び同収支予算書案を全会一致で承認

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和2年6月

公益財団法人緑の地球防衛基金